

OAMP サーバが利用できないとき CVP レポート サーバーのスケジュールを削除するデータベースを設定して下さい。

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。](#)

概要

この資料は OAMP (オペレーション コンソール) サーバが利用できないとき CVP (Cisco Unified Customer Voice Portal) レポート サーバーのデータベース パージをスケジュールするためにプロシージャを記述したものです。

前提条件

要件

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco Unified Customer Voice Portal (CVP)
- オペレーション コンソール (OAMP)

設定

正常なデータベース スケジュール ステップ (ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン)

ステップ 1. デバイス管理 > CVP レポート サーバーへの移動。

ステップ 2. 報告サーバを Name フィールドのリンクのまたはそれに先行する Radio ボタンをクリックして選択し、次に『Edit』 をクリックして下さい。

ステップ 3 サーバコンフィギュレーション ウィンドウを報告する編集でツールバーのデータベース管理 メニューを選択し、そして **Delete** を『Data』を選択して下さい。

ステップ 4 **Delete** ページ報告サーバ データでデータの各カテゴリのデータ保持時間を変更すれば。

ステップ 5. パージを毎日実行するために時間および分を選択して下さい。これはプライマリ (毎夜の) パージの時間を定義し、以降 12 時間の実行するために正午パージを設定します。

ステップ 6. Informix パスワードを記入し、『SAVE』をクリックして下さい及び展開して下さい。

Server Information

IP Address:

Hostname:

Data Delete

Informix Password: * ¹

Configure the data retention time for categories of data.

Data Category	Retention Period (days)
Call*	<input type="text" value="30"/>
Call Event*	<input type="text" value="30"/>
Callback*	<input type="text" value="30"/>
VoiceXML Session*	<input type="text" value="30"/>
VoiceXML Element*	<input type="text" value="15"/>
VoiceXML ECC Variable*	<input type="text" value="15"/>
VoiceXML Voice Interact Detail*	<input type="text" value="15"/>
VoiceXML Session Variable*	<input type="text" value="15"/>
VoiceXML Element Detail*	<input type="text" value="15"/>
Trunk Utilization Usage*	<input type="text" value="30"/>

Set the time for running data delete: Hour: Minute:

* Required.

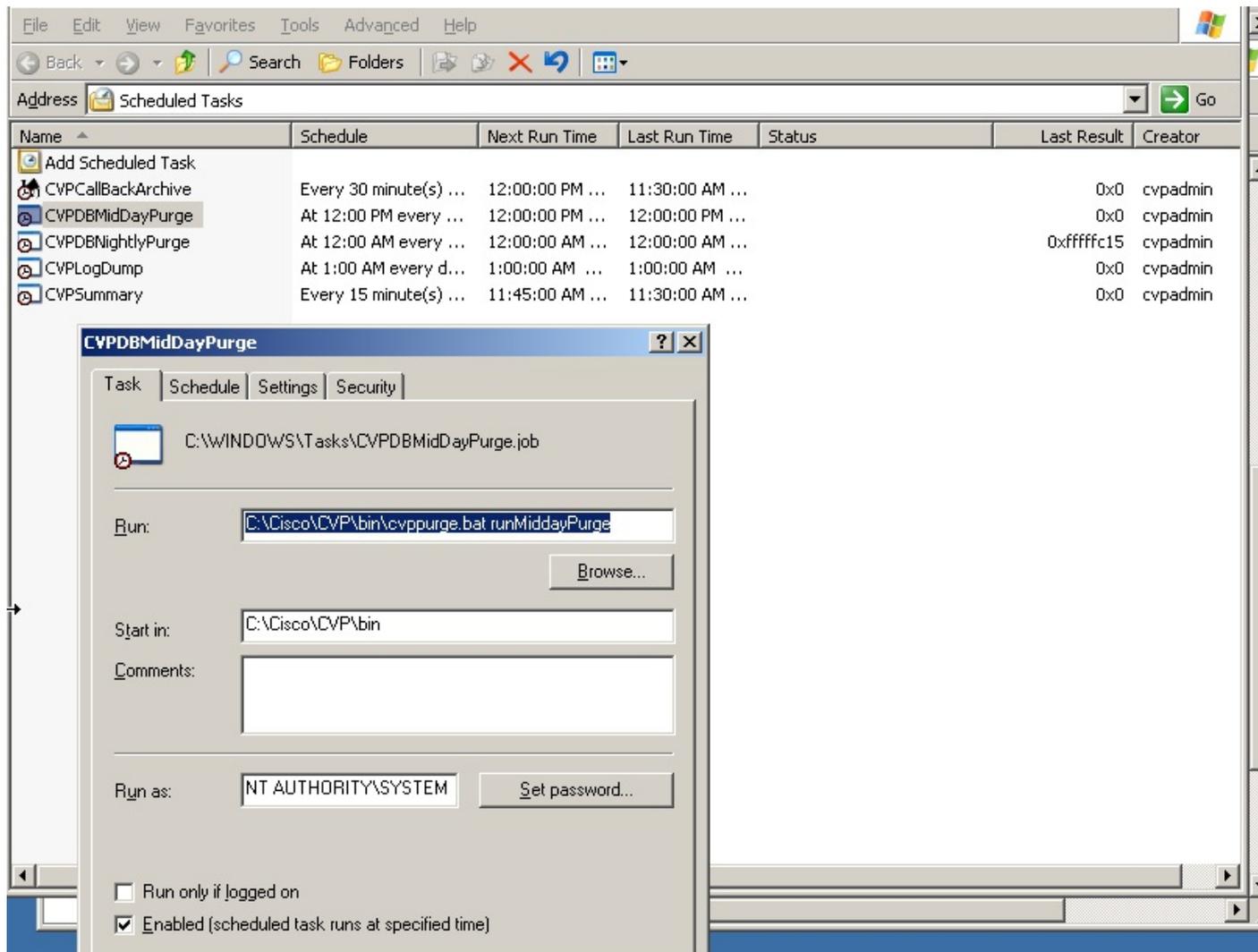
¹ Informix Password is required for retrieving or deploying the Unified CVP Reporting Server retention period configuration.

OAMP コンソールなしで時間を削除する CVP レポート サーバー データベースを変更して下さい

ステップ 1. レポート サーバー インストールは C:\Cisco\CVP\bin ディレクトリにあるウィンドウ バッチファイル **CVPPURGE.BAT** を作成します。このバッチファイルはまた各ユーザー CVP レポート サーバーのウィンドウ スケジューラを通して動作することになっているデータベースをプロセスを削除させ始めるために Java 後部コードを単に実行します。

呼び出します。この場合レポート サーバーは 2 ウィンドウ スケジュール タスク、CVPDBMidDayPurge および CVPDBNightlyPurge を与えます。各タスクは正常なデータベース スケジュール ステップのステップ 5 に言及されているようにそれぞれ正午パージおよび毎夜の パージ アクティビティに、対応します。

ステップ 3 パージは両方とも同じ CVPPURGE.BAT ファイルを使用しますが、異なるパラメータは異なるパージ アクティビティのためのバッチファイルに入れられます。さらに、時間を削除するデータベースは個々のレポート サーバーのウィンドウ スケジューラ タスクによって変更することができます。



確認

トラブルシューティング